



札幌部会(第14回)

日時:	2015年9月12日(土) 14:30-17:00
場所:	Sapporo55ビル 5階 キャリアバンクセミナールーム
参加者:	野間(同志社大)、濱地(道教大札幌校)、川瀬(札幌清田高)、前田(小樽工業高)、山下(札幌市立簾舞中)、兼間(札幌市立常盤中)、竹内(日高町立日高中)、横井(札幌市立常盤中)、大上(道教大札幌校教職大学院生)、山崎(北見北斗高)[順不同]

【内容要旨】

1. 野間先生より、札幌での「経済教室」の開催の旨について説明があり、日程と講師の調整を行った。札幌部会としては、日程の第一希望を来年の1月30日、第二希望を2月20日とし、内容については経済教育ネットワークの大阪部会でも話し合われることとなった。次に3月19日の年次大会において、高校入試問題検討プロジェクトを行う旨の説明があり、札幌部会からは山下先生を推薦することとなった。また、今後、中学教科書の比較検討プロジェクトも行えればという提案があり、北海道の中学校の先生でチームを組んで検討を行う方向性について確認を行った。

2. 川瀬先生より、9月5日の東京部会での資料を用いて部会交流の報告が行われた(詳細は「東京部会(第77回)議事録」を参照)。  
報告後、以下の2人の先生の実践に共通する「ジグソー法による話し合い実践」について意見交換が行われた。

(1) 山本先生(奈良学園中高)によるジグソー法の実践

- ① Aグループ: 進学のコストとリターンを高卒の場合と比較する
- ② Bグループ: 女性が結婚・育児によって失うもの、制限されるものを整理する
- ③ A・Bグループを解体し、グループを再構成して、少子化問題に対する提言をまとめる

(2) 川瀬先生によるアクティブラーニングの実践事例

- ① A・Bグループで異なる新聞の「社説」(予算の概算要求など)を読解
- ② それぞれのグループで討論

< 主な意見交換の内容 >

「新井先生は、ジグソー法は、話し合いに参加しない「ただ乗り」をする生徒が出るという課題があるから難しいと言っていた。最近の大学もアクティブラーニングしなさいという流れがある」(野間)。「このような、ただ乗りを防ぐためにKJ法を用いた実践が出てきた」(兼間)。「新しいことというより、もともとやってきたことと変わらないものではないか」(山下)。

3. 兼間先生より、夏の経済教室(大阪中学の部)における実践紹介「入試問題を授業で活かすポイントはこれだ!」の振り返りを行われた(実践紹介の内容は「2015年夏休み経済教室in大阪 記録」を参照)。  
また、本報告に関連した2つの学習指導案も提示され、これらについて意見交換が行われた。学習指導案の



内容は、以下の通りである。

- (1)「暮らしと経済」～コンビニ、スーパー、デパートのジュース価格の違いとその理由を生徒に認識させることをねらいとした授業
- (2)「鎖国と松平定信の関わり」～松平定信は、国内政策に絞ると緊縮財政政策家という評価が下されるが、外交関係から捉え直すことで、通商政策家という評価を下すことができる。この評価をもとにして、鎖国派と通商派に分かれ、ディベートを行わせるという授業

<主な意見交換の内容>

「大学生でも需要と供給は理解できていない。入試問題の内容を授業にフィードバックしなければならない」(濱地)。「指導案の内容では、コンビニとスーパーのジュース価格の違いを、人件費や大量仕入れの観点で捉えているが、これだと価格は生産費で決まると考えてしまわないか。価格の決め方に対する考えとして、生産費で捉える労働価値説の立場と、人の欲望で捉える限界効用説の立場がある。高校では経済思想から教えるので両方の思想の違いを教えるが中学校ではどうか」(山崎)。「中学校では経済思想までは教えていない。これは平成12年に作った指導案であり、この当時の中学校の教科書では、生産費の立場で記載されていた」(兼間)。「この内容は、栗原先生の『富士山のジュースはなぜ高い』の議論にも近いものがある」(川瀬)。「ある会社の中学校の教科書を見ると、近年まで、価格をまず生産費で捉える内容で記載していて、その後、需要・供給曲線が出てくるという流れになっていた」(野間)。「授業で、出身中学校別に価格の捉え方の質問をしたところ、群部の中学校出身の生徒は圧倒的に生産費の立場で捉えていた。教え方の差だろうか」(山崎)。

4. 山崎より、夏の経済教室(東京高校の部)における実践紹介「経済学を用いた地理の授業づくり」の振り返りを行った(実践紹介の内容は「夏の経済教室in東京 記録」を参照)。  
また、本報告の学習指導案を示したものとして、7月中旬に刊行された『中等社会科21世紀型の授業実践』(学事出版)の「経済的な見方や考え方を深める地理の授業開発」の原稿を紹介した。このようにして、ネットワークの専門家の先生に揉んでもらって、授業案を形にして残していくことは意義のあることだというコメントが出された。
5. 竹内先生より、夏の経済教室における鈴木深氏の資料「知っておきたい証券取引所の役割！」を使って作成した、「株式の市場価格の決め方」についての授業案が提示された。鈴木氏の今回の資料は、株式会社のしくみや、直接金融と間接金融の違いなど、現場の教員にとって有益な情報がまとまった資料であるとの意見が出された。

(文責:北海道北見北斗高等学校 山崎 辰也)

次回開催予定:2月の部会を兼ねて、「経済教室」を1月30日(土)13:00～17:00に実施。場所はSapporo55ビル5階キャリアバンクセミナールーム。